環境月間特別企画「環境でトーク」

鳥羽市の環境と観光

市では、事業所から出る生ごみの減量化を進めています。県と市の補助を受けて、サン浦島に設置された生ごみ処理機です。

６月の環境月間にちなみ、今年も「環境でトーク」を実施しました。

今回は、市長と、観光業に携わり環境保全にも積極的にかかわってみえる吉川さん、江﨑さんにお話いただきました。

島で楽しんだ後は、参加者が自発的にごみを拾う。エコツアーでは、そんな気持ちを大切にしています。

上村　最初に、鳥羽市の現在の環境の状況と、今後、環境保全のためにどのような取り組みが必要だと思われるかお聞かせください。

市長　鳥羽市の場合は、観光客のみなさんがたくさん来ていただくということもあって、同じレベルの市に比べて、ごみが多いと思います。

それから、温暖化の影響、家庭の雑排水の影響なども海に対して出てきてるんじゃないかなと思います。

温暖化によって、魚が活動的になってノリが食べられてしまうとか、あるいは海藻類が生えなくなる、これは家庭雑排水とか農薬の影響もあると思います。

こういったことに対しては、合併浄化槽などの普及をどんどん進めて、排水をきれいにしていくことが大事だと思います。

それから、鳥羽市と志摩市の連合で今度建設するごみ処理施設では、現在動いているものより小さい焼却炉を作ろうとしていますので、それに向けてごみの量を減らしていく取り組みが必要だと思っています。

吉川　生活環境ということがわれわれの仕事にも大きな影響を与えます。

鳥羽の場合は、騒音や悪臭といったものがほとんどないので、安心して暮らせるまちだと言えます。また、こどもを育てるという環境もすばらしくて、小学校の児童も安心して通学できる環境づくりに取り組んできたんじゃないかなと思います。

自然環境というところにおいては、昭和40年代ころから急速に作られてきたホテル、旅館、保養所などが市内の自然景観に影響を及ぼしていることは否めないと思います。使われないまま長く放置されているようなものもあって、自然景観としては好ましくないと思いますので、今後はこうした放置物件を増やさない努力をしていく必要があるんじゃないかと思います。

また、陸地に住むわたしたちには見えない河川や海洋の変化は大きいようです。

昨年、石鏡の海女さんたちの集会で、50年前は漁へ行くと、作業ができないほど海藻が生えていたと。今はほとんど生えてない。これは陸からの水のせいではないのか。というような厳しい意見を聞かせてもらいました。

吉川　勝也さん（㈱サン浦島代表取締役社長）

厨房から出る生ごみの再利用やごみの減量化、環境に配慮した開発など鳥羽の自然を守るためのさまざまな取り組みを展開している。

合言葉は「ごみを持ち込まない、持ち出さない」

江﨑　わたしは、エコツアーをしてますので、環境を悪くしないようにルールを作りながら業をするのが一つのやり方だと思っていますが、その中で、漁業のかたがたの暮らしとか、小さい漁業の在り方に直面することが多いんですね。

先ほど吉川さんのお話に出てきたように海藻が減っているということがあるんですけれども、海藻は海中に生えているものじゃないんです。本当に一部にしか生えないし、いい条件がそろわないと生えないものであって、鳥羽というところは、特にその条件がしっかりそろっている奇跡の海だといえるような地域だと思います。にもかかわらず、海藻の減少が激しくて、その影響でアワビなんかは一時の十分の一ぐらいまで漁獲高が減ってますし、一つ一つの漁業を見ても、減少が著しいものがあります。

鳥羽の海は、ほかの地域にはそんなにない豊かな海なんだということを鳥羽に住むわたしたちがよく知って、それをありがたく誇りに思うことが大事だと思います。

環境というのは、今日だけ一生懸命頑張ってごみ拾いするとかいうことじゃなくて、日々の積み重ね、毎日の中で生活に染み込ませることで、すべてが良くなり悪くなると思うので、そういうところにいくような効果をもたらす取り組みをしたいですね。

上村　次に、それぞれの立場で「環境と観光」のかかわりや日ごろの取り組みについてお伺いします。

江﨑　環境に配慮することは、観光自体のブランド価値を上げるためにもいいと思います。特に、自然や地域の特性を生かした産業というのは、観光で取り組めることであるので、わたしたちはそういう面からエコツアーを展開しています。

この地域ならではの旅の味わいや自然、時間の過ごし方を提供できるというのは、とてもよかったと思っています。

お客様ももちろんそうなんですが、地元のこどもたちや大人の人たちにも地元に目を止めて、地元のことを知ってほしいという気持ちがありますので、それを伝えて、楽しんでもらい、感動してもらって心の中にしっかり刻み込んでもらえたらと思います。

都会に出て行くなら出て行く、地元に残るなら残る、いつか帰ってくることもある。そのベースになるものは、やっぱり自分の生まれ育った地域は素晴しいんやということを心の中に刻み付けることだととらえてほしいですね。

市長　鳥羽市では、リサイクルパークを建設して、そこをNPOのかたが自主的に運営をしてリサイクルやごみの減量を進めています。

各家庭で出るごみの減量化も、ひなたぼっこという衣装ケースを使ってやっていただくなど市民のみなさんに頑張ってもらっていると思います。

また、ポイ捨てごみがなかなか減らない中で、平気で捨てる人がいるなら、それ以上に拾ってきれいにしようと環境パトロールをやっています。ごみは減りませんが、道路のごみなどは結構きれいになったんじゃないかと思っています。環境パトロールは、観光地鳥羽ということを考えると、必要であるし、やってよかったと思っています。

それから、ホテルなど大手事業所から出るごみの減量化に対して協力していこうと、生ごみ処理機の設置に補助を出しながら、生ごみの減量に取り組んでいます。

こういったことを地道にやって、ごみを減らしたり、ごみを拾ってきれいにしていることが定着してくれば、鳥羽市の観光にもプラスになっていくんじゃないかなと思っています。

吉川　景観への取り組みとして、鳥羽市の花ハマナデシコを市民のみなさんや市外からのお客様に見ていただくために群生地を作りたいと平成8年から植え初めて14年間やっています。

また、鳥羽市の木であるヤマトタチバナも同時期にパールロード沿いに植えてきました。一部枯れてしまったものもありますが、14年経って大木になり、たくさんの実をつけます。その実から今は種を取り、苗木を育てるところまできました。ぜひこれが市内の各地区に広がって、いつかは鳥羽市の木や花があちこちで見られるように、これからも努力したいと思っています。

それから、厨房から出る生ごみの処理について市に相談

させてもらったところ、補助制度があるということで、市の指導をいただいて20年度にごみ処理機を導入しました。

設置した当初は、異物の混入によるトラブルも多くて、戸惑いもありましたが、最近は順調に稼動しています。ゴールデンウィーク中も心配していましたが、トラブルはありませんでした。

今は、ごみの減量化ということで、処理した生ごみを乾燥させて堆肥化しています。これを伊賀市の業者と契約して、肥料を渡して代わりに精米した有機コシヒカリをいただいています。毎週、米の配達に来てもらったときに肥料を渡す形を取って、お互いに手間を省いています。米は、経営する旅館で使っているんですが、評判は上々です。

上村　最後に、鳥羽市の活性化のために「環境と観光」にどのように取り組んでいけばよいとお考えですか。

吉川　昨年、姉妹館をオープンさせましたが、ここでは「ごみを持ち込まない、持ち出さない」ということをテーマにしまして、箸は洗い箸、卓上に敷くランチョンマットは廃止にしました。お客様の反応を心配していましたが、クレームなどはまったくありませんでした。

それから、発泡スチロールやダンボールなどでの配達は、基本的にお断りさせてもらっています。食材の配達用には専用の器を使い回してもらうようにお願いをしていますが、業者さんは協力的で、ごみの減量につながっています。

また、生活雑排水は蒸発散浸透式を取り入れ、海へ直接流さないようにして海への影響に配慮しました。

今回の計画では、建築面積を全体の5％に抑え、環境保全として95％を原生の森のまま残しました。今後は、当社がこの土地を所有する限りこの原生の森を開発から守っていくことができます。企業としてできる環境保護の一つと考えます。

鳥羽市の財産であり最大のイメージである豊かな海と活気あふれる漁師の住む町、こういったことに企業として協力をしていく必要があるんじゃないかと思います。

江﨑　海島遊民くらぶで、去年から安楽島の海水浴場でシュノーケルのツアーを始めました。海の中のサンゴや海藻や魚を見るというのはどこでもあるんですが、海女さんが潜ってる海でシュノーケルができる、海女さんと出会える海というのはなかなかないので、すごく価値が高いと思っています。

安楽島は、海女さんたちが操業しているところへ一般の人が入りやすいということで、悪意のない密漁がすごく多かったんですね。でも、深いところで操業している海女さんが、浅いところで密漁している人を見つけても、距離があるのでなかなか確認することが難しい。そこで、シュノーケルツアーをしながらそういうかたがたを注意させてもらうということも去年から始めました。

もう一つは、こどもたちにもっと本当のことを知ってもらいたいと思うから、彼らが何かをやっていきたいとか大切にしていきたいという気持ちを育んでいくような事業をたくさんできるように努力をしたいと思っています。未来に向けて、こどもたちの力はすごく大きいと思うんですね。

市長　吉川さんが言ったように、ホテルで出た生ごみを肥料にして米を作ってもらい、その米を使うという循環は素晴しいと思うし、野菜や魚の調理くずを農業用の飼料とか魚の餌に利用してもいいと思います。

事業所の生ごみ処理機や家庭でひなたぼっこを活用して、こういったことをどんどん進めていけば、ごみが減るのと同時に鳥羽のイメージアップにつながります。みんなで話し合って環境にやさしいまちづくりをすることによって、観光客のみなさんに喜んで来てもらえるまちができるんじゃないかなと思います。

江﨑（えざき）　貴久（きく）さん（伊勢志摩国立公園エコツアー海島遊民くらぶ㈲ＯＺ代表取締役）

旅館の女将をこなすかたわら、島の自然や生活文化に触れながら観光を楽しんでもらうエコツアーを企画。自らもガイドとして活躍中。

大切なのは鳥羽の自然を誇りに思うこと

進行役を務める上村環境課長補佐

環境をよくすることが観光のイメージアップに

木田久主一（きだくすいち）（鳥羽市長）

レジ袋の有料化や事業所系生ごみの資源循環などごみの減量化対策に取り組んできた。2期目に入り、さらに環境を重視したまちづくりを目指している。